

「GSJ 筑波移転」第1回

松井和典さんインタビュー 「地質調査所の施設設計」

聞き手：小松原純子¹⁾，岡井貴司¹⁾



筑波移転当時，地質調査所の筑波計画室室長の山田敬一さんと共に室長補佐として設備設計の打ち合わせを担当された松井和典さんに，当時のことを伺いました。

まつい かずのり
松井和典さん

1948年通商産業省工業技術院地質調査所入所。1988年定年退職。2013年まで(株)ダイヤコンサルタント顧問。5万分の1地質図幅「佐世保」「小値賀島及び肥前平島」「利尻島」，20万分の1地質図幅「福江及び富江」「唐津」など多くの地質図幅を作成。

—地質調査所が筑波へ移転すると決まったとき，地質調査所内での受け止め方はどのような感じでしたか。

筑波に引っ越しする前は建物が溝の口と河田町に分かれていて，とても不便でした。しかも溝の口の建物は昔の軍需工場ですから，当時でも非常に古かったのです(第1図)。河田町はもともと東京女子医大の看護婦寮が空いたところに入ったので，収納スペース等いろいろ問題

がありました。

そういうわけで移転の話が出る前から，溝の口と河田町を一本化できないかという話はあったのです。筑波へ移ることで一本化が実現して研究環境もよくなるということで，研究所の移転に関しては所内の意見はおおむね前向きでした。

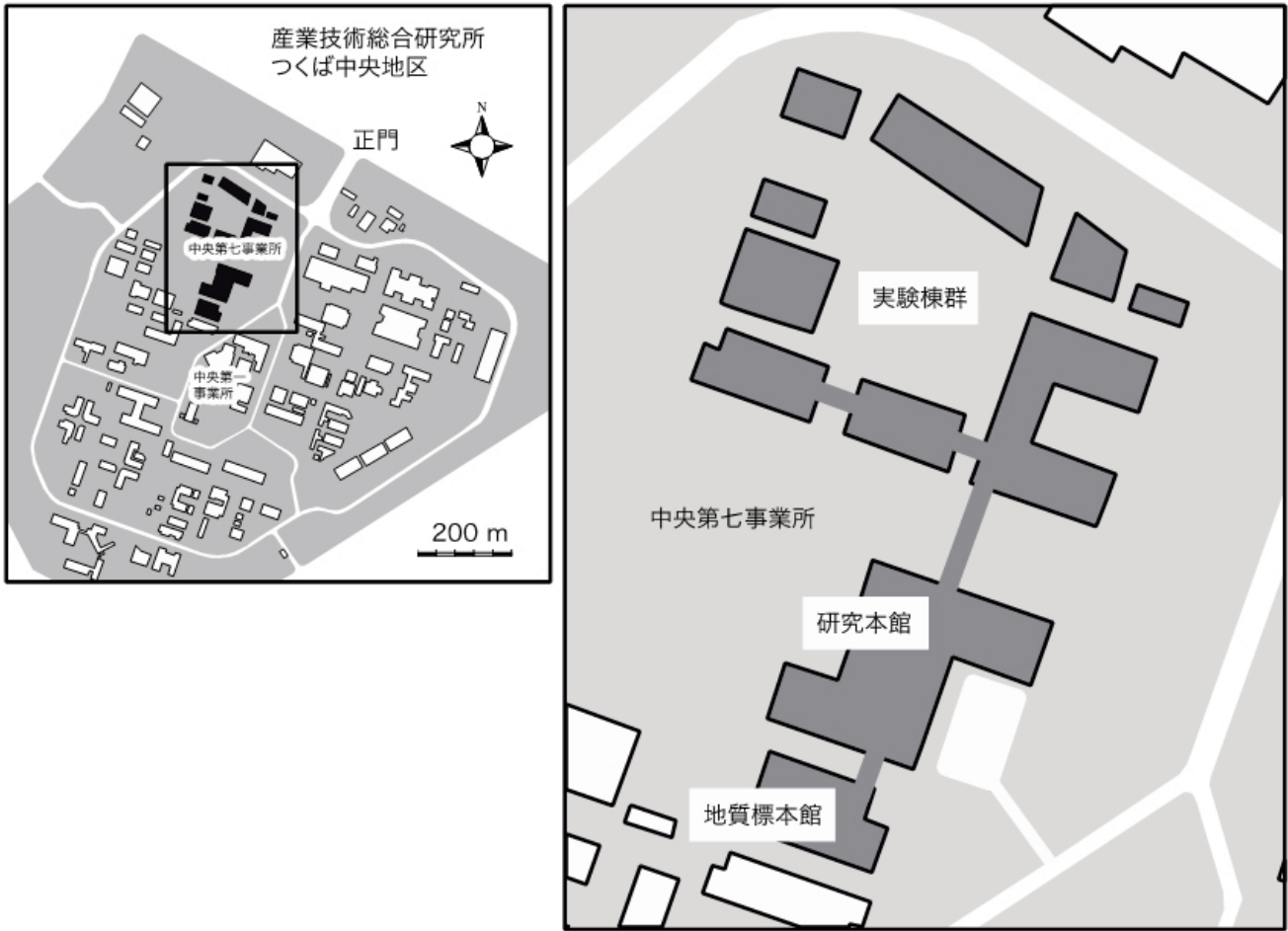
ただし，筑波での生活はどうなるのか，という不安は大いにありました。



第1図 溝の口庁舎。地質調査所百年史編集委員会(1982)より転載。

1) 産総研地質調査総合センター 地質情報研究部門

キーワード：地質調査所，研究本館，地質標本館，筑波



第2図 工業技術院内での地質調査所（現在の産総研つくば中央地区第七事業所），及び建物の配置（2018年現在）。

—建物の設計について、特に考慮した点がありましたら教えてください。

工業技術院の敷地の中で、地質調査所の場所はここだと割り当てられて、その中で建物の配置を考えることになりました(第2図)。なぜここになったのかは、工技院の本部のほうが決めたので、理由はわかりません。

全体の設計として、内周道路に面して研究本館の正面玄関を配置して、その反対側に実験棟を作らなっています。それは工技院のどの研究所も同じでしょう。標本館は本部^(注1)へ来るお客さんがついでに寄りやすいようにと、本部に近いところに配置されました。研究本館は研究に集中して、その代わりに標本館で研究をPRしようという基本方針があったのです。それは強烈に主張しました。設計の時には、各部からの担当者を含めてやりました。

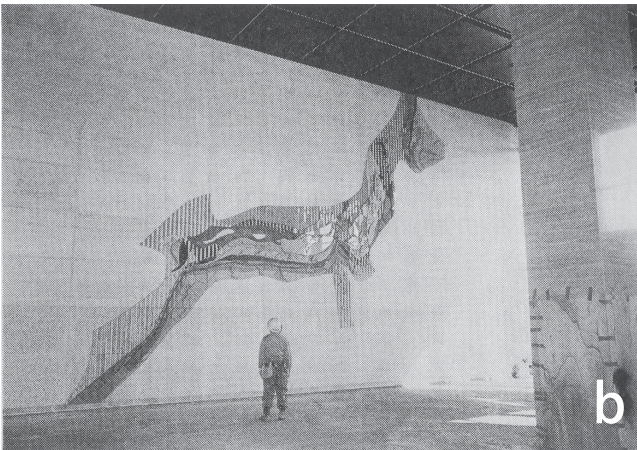
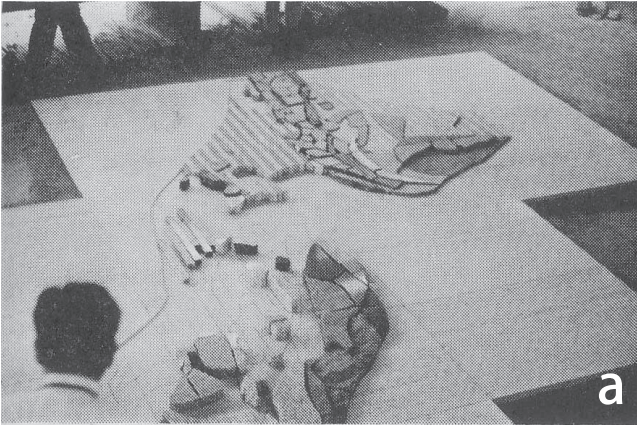
玄関ホールに地質図模型は、元所長の磯見^{いそみ}さん達が作った地質構造図(磯見, 1968)を基にしています。地質図だと細かくなってしまうので、構造図を使うことになりました。区画を代表する岩石が実際に使われています(第3図)。

—居室、実験室の配置については、いかがですか。どの部がどこの部屋を使うというような、部屋割りでご苦労されたのではないですか。

そのへんはあまりもめなかったです。設計をやっている側から割り当てに関してある程度の案は出したかもしれませんが、決定は部長会議のほうでされて、反対はありませんでした。だいたいどこの部も廊下を挟んで居室の向かい側に実験室がくるようになっているでしょう。ただひとつだけ、化学分析の実験室だけは薬品を使ったりするので、配管の関係から最上階に集めました。

あと重視したのはサンプル置き場。移転前、特に河田町の庁舎は非常に手狭で、鉋床部は廊下にサンプルを置いていたけれども置ききれなくなってあふれていました。そのため新しい建物の設計に当たっては、研究室の部屋の中がサンプルだらけにならないように、実験棟の一部に物置を作ったのです。

例えば今やっている仕事のサンプルだけは自分の手元に置いて、終わったサンプルは物置へまとめて入れておく。



第3図 研究本館ロビー壁面の岩石モザイク張り.
a: 制作中の写真. b: 完成直後. c: 2018年1月現在. a,bは筑波計画室(1979)より転載.

【脚注】

- 注1 本部：工業技術院の本部。現在の産総研中央第一事業所。
- 注2 2018年現在，研究本館のサンプル庫はすべて実験棟に集約されている。当時サンプル庫だったフロアは居室等に改装されたところもあるが，特に4階は耐荷重の大きさを生かして産総研つくば中央共通の図書保管庫となっている。

文 献

- 地質調査所百年史編集委員会(1982)地質調査所百年史。地質調査所，162p。
- 儀見 博(1968)日本地質構造図。200万分の1地質編集図，no.12，地質調査所。
- 筑波計画室(1979)研究本館の建設状況。地質ニュース，no.293，1-10。

KOMATSUBARA Junko and OKAI Takashi (2018) GSJ's historical transfer to Tsukuba 1: Facility design of GSJ.

(受付：2018年2月22日)

そして最終的に大事なものは標本館に登録して要らないものは処分する，そういうことです。

手元のサンプルも，各部屋の壁が収納になっていて，そこへ入れるようになっていきますし，研究本館の各階にサンプル庫があったはず(注2)。そういう原則で建物が作られていて，それはどこの部も反対しませんでした。

同じ敷地内のほかの研究所に比べても，地質調査所は図書とサンプルが非常に多いので，設計時に床の耐荷重を圧倒的に強くしました。普通だと200kgとか400kgとかのところを，少なくとも1トンを超える値にしたいと思います。